

町公民館だより

編集 日野町公民館 〒689-5131 日野町黒坂1243番地1
電話：74-0212 FAX：74-0105
E-mail：kouminkan@town.hino.tottori.jp

認知症カフェのくつろぎが生む地域の力

▼第5回おしどり学園



▲「生活の中に新しい流れを」と吉野さん

8月20日、おしどり学園を開きました。

今回は、「認知症カフェがもたらす新たな地域の協働の力たち」と題して、公益社団法人認知症の人と家族の会鳥取支部の代表世話人吉野立さんが講演を行いました。

吉野さんは、認知症の人が人との交流によって本人が認められる、役割があるなどの体験を持つことによって、認知症が進んではいるけれども暮らしの中では活き活きとして生きていくといった事例を、認知症に向き合うようになって25年余りの経験から話します。

「家族・親族以外の新たなつながりを地域に創る」方法として、地域に根差した「オンラインカフェ（認知症カフェ）」があり、認知症の人や介護家族も地域の人も、だれでも気軽にかけられる場所として活動が行われています。

「80代になったら4人に1人は、なんらかの形で認知症の症状が出てくる。どうやって暮らしていくか。認知症になりたくないからどうしようということではなくて、『歳をとると認知症になるのなら、どうせなるなら、どんななり方がよいのか。なるのをズラすことはできないか』という考え方を持つことが大切」と吉野さん。人生100年時代と言われる昨今。早い段階から100歳時代を考えた暮らしへシフトし、「生活習慣を見直してみる」「認知症に理解を深める」「家族・親族以外の新たなつながりを地域に創る」方法などを、例をあげて説明しました。



▲わらべ歌で頭の体操 心をほぐす (わすれんぼくらぶ)

松田さんは、認知症になっても大丈夫という地域にするために、鳥取県西部地震後からボランティアで20年続けている「高齢者誕生月プレゼント」の発展型として、地域で集える場を作りたくて2019年6月からカフェを始めました。ほぼ毎月第一金曜日に、町文化センター・山村開発センターで開かれています。

松田さんは「できることから、やってみよう」と、

カフェに集う地域の人たちとの交流により、地域で励まし合ったり、お互い見守りあったり、生活の中に新しい流れを持つことがこれから大切になると締めくくりました。

続いて、わすれんぼくらぶ代表の松田暢子さんが、根拠地区を拠点に活動している認知症カフェ「わすれんぼカフェ」の実践発表を行いました。

「認知症にやさしい町は、だれもが暮らしやすい町です」と活動を説明し、カフェへの参加を呼びかけました。また、黒坂でも町公民館でカフェ「オンラインサロンかわこ」がスタートしました。学園生は2人の話から、認知症への理解を深め、地域交流の大切さを学んだ講演会となりました。

次回おしどり学園のご案内

日時 10月15日(金) 午前9時30分
場所 町公民館 講堂
内容 講演 「人生会議〜活き活き生きるために〜」
講師 日野病院 内科医 / 鳥取大学医学部地域医療学講座 中井翼さん

【問合せ・申込み】町公民館(74-0212)

夏の自然を楽しもう！

▼学社連携事業 夏休み子ども教室「自然教室」

7月27日、板井原川で根雨小学校の「夏休み子ども教室～自然教室～」が開催されました。

当日は快晴の中、根雨小学校の児童30人が参加。祇園橋近くの板井原川に入り、生き物観察を実施しました。子どもたちは「カワヨシノボリ」「タカハヤ」などの魚類や「コヤマトンボのヤゴ」「ヒゲナガカワトビケラの幼虫」などの水生昆虫を見つけたり、水の冷たさを肌で感じたりして、自然の素晴らしさを満喫していました。



▲どんな生き物が見つかるかな～？（根雨小）

▲カワヨシノボリの卵（板井原川）



▲オナガサナエ（日野川）



▲よく目を凝らして観察（黒坂小）

また、8月3日には、黒坂のカワコ公園を会場に、黒坂小学校の「夏休み子ども教室～自然教室～」が開催されました。

梅雨明けから晴天続きで日野川の水は大変少なくなっていました。その分水の中での活動はしやすく、「アユ」「カマツカ」などの魚類や「アオハダトンボ」「オナガサナエ」など水辺の昆虫にも出会うことができ、夏の自然を満喫することができました。

子どもたちの安全を願って

▼町青少年育成会がパトロール



▲パトロールに出発！（町公民館前）

夏休みの期間中、町青少年育成会（長谷川真由美会長）の会員で、街頭指導パトロールを行いました。パトロールは、青少年の非行的活動の抑止および不審者対策を目的に、延べ25人が、夏休み期間中の金曜日（祝日と盆を除く）に計3回にわたって実施。根雨や黒坂のまちなかを巡回しました。小中学生は、夏休みのくらし・生活心得として、帰宅時間が午後6時と決められています。出会った子どもたちに声かけや指導をして帰宅を促し、青少年の成長を見守りました。

今も昔も変わらないもの

「言葉」というものは時代によって常に変化し続けるものなのですが、そのせいで「最近の若者は言葉が乱れとる」と言われてしまいがちです。

例えば、「この動画、面白くて永遠と見てられる」という文章。「延々と」と混同されたものですが、最近、こうした誤用をネット上で見かけるようになりました。

「永遠」は、「不変で、無限なもの」であり、長時間続くという意味の「延々」とはスケールが違い過ぎます。でも、

好きなものは「永遠」に見ていたい、という気持ちもわかるような気がしますね。

ただ、これを現代の若者のせいにしてはいけません。私たちの先輩も同様なのです。

「いつも、常に」という意味の「えーたい」という日野弁があります。この語源は「永代」ではないかという説があります。「永代」は、「永代供養」とあるように、永久を表す言葉。「あの衆はえーたい畑に出てござる」とか、よく考えると面白いですね。

協力：日野町歴史民俗資料館友の会